「こんにちは！知事です（宇和島地方局）」

日　時　　平成１５年１０月２１日（火）10:00～12:00
場　所　　近永公民館

参加いただいた方々

№	住所	氏　　名	№	住所	氏　　名
1	広見町	桂　　早苗	11	松野町	金谷　裕美
2	〃	芝　　茂	12	〃	谷口加代子
3	〃	武田　　光	13	〃	正木　仁美
4	〃	武田真由美	14	〃	毛利　彰男
5	〃	谷口　雄記	15	〃	山崎　　匡
6	〃	土居　周策	16	〃	山本　鶴美
7	〃	二宮　　崇	17	日吉村	入田　伸介
8	〃	水野　志保	18	〃	橋本めぐみ
9	〃	山本　博士	19	〃	渡辺榮喜枝
10	松野町	岡部　政憲			

懇談の概要

農業後継者の問題、農業関係者への報奨制度

後継者問題対策として、地域に作業所を作り、みんなで協力して農業をすることを考えている。
農業への補助金よりも、農業で地域に貢献した者への報奨制度を充実してほしい。

（知事）
共同作業所は、応援できる方策を検討する。
表彰でなく金銭的な意味での報奨の仕組みは難しいが、検討する。

［対応］
県では、集落や地域ぐるみで意欲的な認定農業者への農地の集積や特定農業法人（集落の過半の農地を集積する経営体）等を育成する集落営農を推進しており、新規就農研修施設、高生産性農業用機械施設など共同作業施設については、経営構造対策事業をはじめとする国の補助事業で対応している。
表彰制度については、農業を通じて地域に貢献した者や団体等を顕彰しているが、金銭的な意味での報奨制度の創設は困難である。

合併による明るい材料

過疎化が進む地域で、２町１村の合併による明るい材料を教えてほしい。

（知事）
合併に際し、県は、基本パターンと参考パターンを示し、枠組みを市町村長が決定した。道州制により、四国州になった時は、きほく町は小さすぎる。都市にはない、みんながあこがれる町、きほくのアイデンティティを持つべきである。コアになるものは、目に見えるものは自然環境であり、目に見えないものは人の心である。誇りに思える町づくりを目指すことである。

四国州

四国州になった時の日本はどうなっていると思うか。

（知事）
道州制により国の出先機関がなくなれば、州が対応することになる。四国州より中国地方の県から意見の出ている中四国州の方が私は賛成である。愛媛県では、５つぐらいの市になると思う。中四国州になると韓国に匹敵する経済規模になる。

わかりやすい県政の情報発信

若い年代は県政に興味を持っていない。インターネットなどの情報発信をもっとわかりやすく、親しみやすいものにしてほしい。

（知事）

正確を期そうとするため、どうしても難しい文章になるが、県のホームページもイラスト付きの漫画本的なホームページだともっと見てもらえると感じる。

ＡＤＳＬの補助制度

商工会青年部が中心になってＡＤＳＬを整備したいと考えている。県が補助すれば、松野町は補助すると言ってくれている。過疎地には、企業が対応してくれないので、県の補助金を考えてほしい。

（知事）

調査する。いずれにしても、県は高度情報化に向かって推進している。

［対応］

（　松野町が町単独で整備予定　）

東南海地震対策

東南海地震への対策はどうか。

（知事）

防災計画を策定し取り組んでおり、東南海地震、南海地震の想定での見直しも図っている。

災害時における近隣市町村の協力体制

宇和島で大潮の時に津波が来たら４～５メートルになるが、近隣市町村の協力体制を宇和島地方局ではシミュレーションしているのか。

（宇和島地方局長）

宇和島地域で広域の応援協定を結んでいる。また、松山、新居浜など県内各地からの応援態勢がとれるように準備している。

精神障害者の就労

県の障害者プランは精神障害者に配慮されていて、大変喜んでいる。家族がいない等の理由で入院をしている障害者が退院してきても住める場所がない。就労には力を入れているが、社会に出て慣れない人に手をさしのべる機関が少ない。

（知事）

就労受入機関の整備、作業所の設置の掛け声を続けなければ社会の意識が変わ

らない。弛み無く、県民に仲間意識を自覚してもらうための意識啓発を進めていく。

婦人会活動への参加

婦人会で地域での子育て支援に取り組んでいるが、保護者は子供の学力向上には熱心であるが、婦人会活動には参加してくれない。

（知事）

親ができないことを婦人会が代わってがんばっていただきたい。

鬼北地区への県立グループホームの建設

民間ではいろいろとグループホームができているが、県立のグループホームが鬼北にあればいいと思う。

（知事）

民家を改修し、簡単なバリアフリーを行い、その施設を利用してグループホーム、託老所を作る補助制度をスタートさせた。これまでに３件だが、この地域もあったらいいと思う。

知的障害者の支援施設の設置

知的障害者の支援施設が他県に比べて少ないと思う。

（知事）

公共施設だけでなく、可能な限り民間で作業所を運営できないか保健福祉部に指示している。障害に対する作業所は少ないだろうと想像している。

果樹試験場への野菜研究機関併設

果樹試験場鬼北分場に野菜の研究機関を併設してほしい。

（知事）

吉田町の南予分場をみかん研究所にして、鬼北分場は整理統合の対象として検討しているので、野菜研究機関を併設することは現実的には難しいと思う。野菜研究の成果は、農業試験場と連携して農業改良普及指導員が農家に伝えていくことで対処する。

農業改良センター鬼北普及室等の存続

農業改良普及センター鬼北普及室としての復活をありがたく思うが、合併後も存続してほしい。 果樹試験場鬼北分場の存続もお願いしたい。

（知事）
　県も行政のスリム化を行っている。出先機関を整理統合した場合でも、農業改良普及指導員がそれぞれに地域に駐在できる体制を残していきたい。
　費用対効果の問題があり、効果を上げているものの試験研究機関の全てを維持していくことは難しい。特に、農業はこれまで県依存型であったが、本来は農協がすべきではなかったのか、税金を使うことを県民が許してくれるのかを考える時期に来ている。

鳥獣害の根本的対策

鳥獣害の根本的な対策をお願いしたい。

（知事）
　鳥獣害対策はいろいろな支援、工夫しているが、具体的な提案が出れば取組みを考える。

将来の農業方針の策定

５年先１０年先の県レベルの農業の在り方の方針を県で策定してほしい。

（知事）
　国、県においても農業ビジョンを作っている。大切なことは農地の確保である。食糧確保が必要であるが、生産調整もせざるを得ない。後継者問題のための新規就農支援にも取り組んでいる。個々に対応するのは制度上難しいが、地域の共通した意見が出れば施策化できる。

公共事業の在り方

公共事業の在り方、進め方はどうなるのか。

（知事）
　国は、道路特定財源があるのでそんなには変わらないが、県では、財政状況が厳しいため大幅に縮小している。中山間地域に対しては、これまで公共工事に従事することで農業経営が成り立っていたことに配慮しなければならない。

北宇和病院の存続

当地に総合病院は宇和島市にしかない。北宇和病院には以前小児科があり助かった。大きな赤字があり、廃止した方がいいとの意見があるが、車のないお年寄りのためにもできたら存続していただきたい。 建て替え以前は、赤字ではなかったのか。

（知事）
　地域での大きな関心事であるが、北宇和病院開設以来４５億円の累積赤字で、

一般会計の繰出を除いて毎年の経常赤字が５億円あり、返済するあてがない。本来、県立病院は緊急医療、高度治療のような県でしか対応できないものを担うべきである。宇和島市立病院があり、徳州会病院も開業するなかで、税金を注ぎ込むことを他の地域の県民が許してくれるのかどうか。第三者の包括外部監査でも廃止の提案があった。あるから残すでは説明ができない。

赤字額に建て替え費用は含めていない。当時は、県財政で負担できる見通しがあったのだが、経営方針が誤っていたと言わざるを得ない。

北宇和病院の医師の問題

北宇和病院の医師に、足の骨折により仕事ができないのなら入院させてやろうと言われた人がいる。医師が良くないと患者は、病院に行かない。赤字には、医師の退職金が大きいのではないか。

（知事）

いろいろな取り組みをすれば、赤字は削減できるが、抜本的な対応にはならない。鬼北地方で県立病院として運営することは、県民の納得を得られない。

北宇和病院の役割

北宇和病院は、鬼北地区だけでなく高知県の西土佐村、檮原町など県外の人も利用していることを認識してほしい。

（知事）

北宇和病院の利用率は、鬼北が９割で高知県の利用者は１割である。高知県に負担を求めるのは困難である。県立病院として存続するのか、別の形での転換をするのか、廃止するのか、３つに１つを真剣に検討している。

北宇和病院の病院としての存続

県が北宇和病院を存続できないのであれば、委託ででも病院を残してほしい。

（知事）

引き受けてくれるところがあれば、施設を無償で貸与または譲渡することは可能である。

北宇和病院への小児科設置

合併により、日吉村はますます寂れていくと思う。おむつ、ミルクを買うのも広見町に来ている。北宇和病院に小児科を設置してもらいたいと思う。

（知事）

北宇和病院の問題は繰り返し申し上げたとおりであり、申し訳ない。

合併しても役場が変わるだけで、生活環境が変わることはない。合併により、これまで他の町村であったことが、自らの町のことになり、新たな喜びが共有できる。

子供の育て方

幼児教育をどのようにすればいいか。どのように育てたらいいのか。
子供たちが抱えている課題への学校での対応はどうか。

（知事）
以前の子供の群れ社会では、６年生がリーダーになり、決められたルールが守られていた。今は、群れ社会がないので、子供の人間形成にインパクトを与えるものがない。子供の小さな群れ社会が必要であると思う。
（教育事務所長）
国では、基礎、基本の育成、心の教育に取り組んでいる。言われたらするのでなく、自ら問題解決できる子供を育てなければならないと考えている。教員の研修、地域の支援に取り組んでいる。

中学校の代用教員補充

中学校に体調不良で休暇中の教員がおり、当初は短期間の休暇であったため、代用教員を置かなかったが、結局、１ヶ月近く英語の授業が行われていない。代用教員について柔軟な対応をしてほしい。

（知事）
長期化することが予測できなかったためであるが、臨機応変に対応すべきことである。教育長に言っておく。
（教育事務所長）
休暇の状況がわからずに、対応が遅くなってしまった。中学校では対応すると言っている。
［対応］
〔　10 月 27 日（月）から英語の代用教員を配置。　〕

教員の増員、教育の研修

教員の数に余裕がないので、現実的な対応が難しいが、先生は友達感覚でのつきあいが不足している。老人と子供の交流を行っているが、先生の方からいろいろな機関に声をかけてほしい。そういった研修もしてほしい。

（知事）
老人クラブと子供との交流は大変いいことである。言葉遣いの問題だけではなくて、かなり世代が離れた間の交流というのは、子供たちにとって得るもの

は非常に多いと思う。一方、お年寄りも子供と接触することで、喜びを感じると思う。